



皮疹の「未整理フォルダ」を増やす楽しみ

梅垣 知子

東京女子医科大学附属足立医療センター皮膚科教授

かつて1989年公開のハリウッド映画『ブラック・レイン』を映画館で見た記憶がある。アクション映画で私の故郷である大阪が舞台となっている、という点に興味をもち見に行ったのであるが、1人のジャパニーズマフィアの演技の凄みに、当時まだ高校生であった私は心底震えあがってしまった(この日本人役者が松田優作さんで、本作品が遺作になったことを後に知った。また日本人警察官役で、高倉健さんが流暢な英語を披露しておられた)。

あれから35年も経って、今年この映画をもう一度見る機会があった。まず冒頭で、主役のマイケル・ダグラスがバイクを走らせているシーン、それがブルックリンブリッジからニューヨークのマンハッタン島が眺められる美しい景色なのだが、そこにはまだワールド・トレード・センターが映っていることに今回すぐに気がついた。2001年の9.11テロで崩れてしまったツインタワーがまだ鮮明にそこにあった。私は2011年に米国ニューヨークのコロンビア大学皮膚科に留学する機会を得て、マンハッタンからブルックリンブリッジを散歩して、もはやワールド・トレード・センターの「ない」景色を毎週眺めていた。

皆さんへのメッセージは、何年経っても解決しない皮疹について、「未整理フォルダ」を作成し、いず

れ解決する日までそのまま「未整理」として保存しておいていただきたいということである。『ブラック・レイン』のシーンについても35年を経ても一瞬で気がつくはずのものが、当時は知らなかった、気がつかなかった、おこっていなかっただけなのである。

今後、世界の医療の進歩、AIを含めた技術の進歩により、これまで以上に加速的に未解決のものが「解決済み」になると予想される。皆さんには、ぜひこの「未整理フォルダ」のメモリーの容量を増やし症例を余すところなく蓄積していただき、そしてときどきでもよいのでまだ未解決かどうか、いまの目線でもう一度見直す機会をもっていただきたいと願っている。

皮膚科医とは奇妙なもので、患者さんの顔はいつしか忘れてしまっても、皮疹はいつまでも覚えているものである。私自身もこれまで未解決だったものが、「解決済み」になる瞬間を楽しみに、日々の診療、研究に励もうと思う。